

第三者意見



NPO法人 大阪環境
カウンセラー協会 理事
CEAR登録 環境主任審査員
地球環境関西フォーラム
戦略部会委員
大阪産業大学、近畿大学、
鳥取環境大学 講師

吉村 孝史

荒川化学の環境・社会報告書を評価するうえで、第一に言及しなければならないことは、環境に配慮した製品を通じた社会貢献です。地球は、温暖化や生物多様性などで、深刻な環境問題をかかえています。荒川化学は高い開発力と技術力によって、粘着・接着剤や製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、電子材料用樹脂などで、有害な素材を使わず、しかも、省エネルギーにつながる分野で、特徴的な製品群を次々と世の中に送り出しています。環境・社会に対する配慮が、基軸事業に組み込まれていることは、巻頭の社長挨拶で明確にされており、評価できます。

特に、新製品開発プロセスについて、完全水系エマルジョン型タッキファイヤーの開発の事例特集は説得力があります。松の木から採れる松脂は動物性の膠とともに、古くから接着剤として用いられてきました。現在の暮らしの中でも接着剤はいたるところで、活用されています。そして、接着剤の多くには、荒川化学のロジン(松脂)をもとに製造されるタッキファイヤー(粘着付与剤)が幅広く利用され、国によるVOC規制強化のなかで、有機溶剤をほとんど含まない水系タッキファイヤーは、建材の接着剤などになくてはならない素材となっています。ここから、さらに有機溶剤を一切使用しない製品を追求し、タッキファイヤーの完全無溶剤化を実現しました。粘着性能と環境性能の両立という究極の課題を克服し、その優れた特性によって、たばこ包装用フィルムやペットボトルのラベルフィルムなどの新用途を次々と開拓しています。

私はパナソニック(株)在職時、鉛フリーはんだの導入に取り組みましたが、品質性能と環境性能の両立という課題に苦闘したことを思い出します。それには、トップの強い意志が決め手でした。荒川化学においても、開発技術者の懸命の努力を後押ししたトップの強い意志が感じられます。

この環境・社会報告書を読んで、全般を通じて感じられることは、「真摯な」取り組みです。特に、サイト別活動報告に、その「真摯さ」が伺えます。環境保全活動目標は、全社目標が達成されるだけでなく、各部門(サイト)の目標の達成も重要です。このサイトレポートの収録は、情報開示面からも評価できます。

なお、当レポートの報告内容について提案したいことは、日本経済新聞の2009年度「企業環境経営度調査」結果で対応不足と指摘されている「海外関連会社の環境への取り組み」と「生物多様性への対応」です。

■「海外関連会社への環境への取り組み」については、ISO14001の認証取得にふれており、従業員の声(VOICE)でも取り上げていますが、部分的です。開発、生産的にはグローバル化しているのに対して、環境的には、グローバル対応が不足しています。例えば、環境保安推進体制や環境保安監査に海外部門が見えません。環境保全活動の目標やサイト別活動報告でグローバル対応をどうするのか示されていません。直ちに、グローバル対応ができなくとも、その道筋を示すことが重要です。

■「生物多様性への対応」については、2010年10月、名古屋市で生物多様性条約のCOP10が開催されることもあり、今や、地球温暖化に並ぶ、地球環境問題となっています。地球温暖化対策は、省エネなど、どの業界でも取り組みが具体的ですが、生物多様性は、業界によって、取り組みが異なります。これからの問題であり、事例が乏しいなど取り組みにくい点があります。貴社は、松脂という自然の原材料を多く使う立場にある以上、生物多様性への関わりはあるはずであり、先行的な取り組みが期待されます。

第三者意見を受けて

NPO法人 大阪環境カウンセラー協会・理事の吉村孝史様より、「環境・社会報告書2010」に対する第三者意見として、貴重なご意見、ご指摘をいただきました。

当社は、早くから資源循環型の原材料であるロジン^{まつやに}を有効利用した地球環境にやさしいもの作りを追求し、企業活動における環境負荷の低減を進めて参りました。今回の特集では完全無溶剤型のタッキファイヤー製品の開発の取り組みをその一端として報告いたしました。今後も環境対応型製品のグローバル展開を通じて、地球規模での環境保全への貢献を目指していきます。

また、今回「海外関連会社の環境の取り組み」と「生物多様性への対応」についてご指摘いただきました事項は、当社が今後のグローバル展開を目指すうえでの貴重なご

意見として受け止め、当社の持ち味として評価いただいた「真摯な」取り組みで、着実にレベルアップを図っていく所存です。

今後も、環境にやさしい新技術・新規事業の創生を通じて、グローバルな規模で社会に貢献できる企業を目指す当社の事業活動を、すべてのステークホルダーの方々によりわかりやすく伝えていけるように、環境・社会報告書作りを

進めてまいります。今後とも、よろしくご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。



荒川化学工業株式会社
常務取締役
経営企画室長
環境保安担当
谷奥 勝三